

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	会社の理念と事業所ごとの理念があり 職員に徹底するようミーティング時に話し合っている。	ホームの玄関入ってすぐに掲げてあり 常に心掛けている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、実践できるように努力している。	介護者としての心得 10ヶ条を毎日申し送り時に唱和し、常に意識し取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	常にご家族の方に理解していただけるように、通信の配布や面会時に話している。	家族会のような会を定期的に行い、意見交換の場を作って行きたい。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月ホーム内での行事やお知らせ等を記載した「新宮通信」を配布している。また出勤時 散歩時には、挨拶をする事を徹底している。	今後も散歩や掃除など外に出る機会を増やし近隣住民と交流出来る機会を増やして行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	参加出来る地域行事には参加させていただいている。(夏祭りなど)	今後も出来るだけ地域行事に参加し、お互いに行き来出来るようにして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各事業所で地域密着委員を立ち上げミーティングを行い、その都度話し合っている。		今後色々な意見に基づき実践して行きたい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をする事で、改めて気づく改善点などに、十分に視点をおき取り組んでいる。		今後もその都度、改善が必要なところは、即改善し努力して行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで行い、それぞれのホームの状況や、参加者からの意見を聞き取り組んでいる。		今後も定期的開催し、より良い意見交換が出来るようにしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	新宮町役場の健康福祉課を月に2回程度訪問し保健師や役場職員相談委員等と情報を交換し意見を頂いたりしながらQOLの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的にホームでの勉強会やミーティングの際に、職員全員で学ぶ機会がある。		今後も定期的に勉強会を行い、制度が変わったりする際は、その都度勉強する機会を増やしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員全員が十分に注意し、言葉による虐待など改めてどういふものなのかを学ぶ勉強会などおこなっている。		会社主催の勉強会で学んだ事もあるが、改めて定期的に学びたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、契約書の内容を1つ1つ説明している。</p>		<p>質問等ある際は的確な説明が出来るように、常に再確認をおこなっていく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何気ない会話や、ホームで入居者・職員が自由に意見が言える「はなみずき会議」というものを不定期に行っている。</p>		<p>常に何でも言いやすい雰囲気づくりを心掛け、苦情などある際は、全職員で情報の共有を行いすく改善していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時の報告や、特変ある際はその都度、ご家族の方へ連絡し状況報告を行っている。また、月末には「ふれあい通信」個別の金銭管理表を郵送している。</p>		<p>今後もしっかりとした、状況報告を行って行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケートを行ったり 常に管理者・職員へ直接伝えてもらうようにしている。</p>		<p>苦情等があった際は、即改善し今後に役立てたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員間の情報や小さな気づき等に耳を傾けミーティングで提案し反映できるものは実践している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族希望の外出の付き添いや、利用者の外出の要望はきめ細かく対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職時は早い時期から申し送りや、引継ぎを行い途切れる事の無い日常生活が送れる様支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>20代～50代の職員、男女の差別無く持ち場、立場でその能力を發揮できるようにしている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>尊厳を持ち、その方の生活を支援できるよう人権教育や啓発活動にとりこんでいる。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修の重要性や住宅改修や、ガイドヘルパー、介護福祉士、介護支援専門員等会社を上げて取り組み職員のスキルを上げたり、自信に繋がる研修を進めている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の研修や医療部門の研修に積極的に参加し質の向上にとりこんでいる。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>野球や芝居等の観覧券の配布や希望を聞き休日の希望はできる限り受け入れるよう努力している</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>自主研修参加や他施設研修の希望時は向上心を高める良い機会とできる限り聞き入れて参加出来る様努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日々のケアの中に傾聴する機会があり、何気ない会話の中からも、その方の求めている事などに気づくように心掛けている。</p>	<p>状況を見極め、出来るだけゆっくりとした雰囲気でお話をし、機会を増やしていきたい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会の際や家族会等で話し合う機会を持ち、改善点がある場合は、すぐに改善出来るように取り組んでいる。</p>	<p>今後も家族の負担にならないように、努力していきたい。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、他のサービス利用について検討している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ミーティングやケアカンファレンス等で話し合い、入居者の負担にならないよう、サービスの提供を行っている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々のケアの中で常に相手の立場になり、ケアを行うようにしている。</p>	<p>全職員、常に思いやりのある言葉使いに心掛けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランや日々の生活状況を伝え面会の時などに話をしている。		特に新しい入居者のご家族とは、日が浅く信頼関係が、まだ十分に築けていない為に、今後面会・面談時に話し合いの場を持ち、ご入居者・ご家族を支えられる関係を築いていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊など出来る限りの事でご家族の負担にならないように支援している。		今後も、色々な面で協力していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう 支援に努めている	個人レクとしての実施や、ホームへの面会のお誘いや行事のへのお誘いを行っている。		お互い都合の良い時などには、お互いが行き来出来るようにしていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	その状況に応じレクなどを通じ日常生活などでも交流を持つよう工夫している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方でも、様子を見に伺ったり 家族の方から相談等も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご入居者本人やご家族からも情報を聞き、出来る限りの支援を行うように努力している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族また、以前利用されていた事業所の方などから情報収集し、今までの生活状況の把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の状態把握と特変ある際も常に、全職員共有する様に徹底している。特に精神状態の変化の把握に努めどつ対応して行くかを検討している。</p>	<p>有する力の見極めは難しく、リスクを早期に察知し、出来る事の新たな発見も多い為どこまで出来るかの見極めが出来る様に取組みたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>基本的に本人と家族の希望に基づいて介護計画を作成している。また毎月のケアカンファレンス・ミーティングにも話し合っている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月見直し・6ヶ月切り替えて介護計画を実施しているが、新たな希望や状態変化などがあつた際は、その都度変更し実施している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌等で常に情報の共有出来る様にしており、ケアプランに基づいた物になっており、ケアカンファレンスで話し合い評価・見直し等を行っている。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その状況に応じ、支援出来る範囲で出来るだけ要望を受けられるように、支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防の方には、定期的に来訪していただき災害や火災等についての訓練や講習をしていただいている。また手芸ボランティアなど入居者との交流を含めた支援を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば他事業所のケアマネージャーや、病院のソーシャルワーカー等と連携をとり支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や成年後見制度の研修等は社会福祉協議会や包括支援センターと協力し情報の共有をしている		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日 24時間体制で常に連絡取れる様になっており、救急の場合の対応もしっかり取れる様になっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に色々な相談をし、それに対する支援を行っている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院の看護師の方の24時間の支援がある。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者とホーム側のケアマネージャーなどと、情報の共有を行い連携を取っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的なケアカンファレンスで、職員全員で話し合っている。また、家族への相談・主治医からの説明を繰り返し行っている。		今後の対応など、家族の方・医療とこまめに話し合いを行っていききたい。また、ケアカンファレンスなどでも、十分に話合って行きたい。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ！良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に状況は、変化するがその都度検討し、ご本人の負担にならないように、支援している。出来るだけ、本人・家族の意見を尊重している。		今後も十分に本人・家族・医療とホーム側の連携を取り、常に状況変化に対応出来る様に話し合う機会を増やしていきたい。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族の方と十分に話し合いを行い、ご利用者様の負担にならない様に、ケアに努めている。		常に、あらゆる角度から検討し、出来るだけダメージにつながらないように、話し合いを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常に思いやりのある声掛けを心掛け、個々に合わせた言葉掛けを大事にしている。また、利用者様の名前が記載している記録等は、目のつく所には置かないように配慮している。</p>	<p>利用者様の目の届く所には、記録等は置かない様に徹底する。また、常に相手の立場になり、思いやりを忘れない声掛けを行う</p>
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>1人1人の状況に応じた声掛けを行い、日常会話の中からも自己決定しやすい雰囲気を大事にしている。</p>	<p>声掛けもかしこまり過ぎて、相手が意見を言いにくい雰囲気にならない様に心掛け、出来るだけご本人が納得出来るように支援して行く。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご入居者1人1人が負担がかからないように、その方に合ったペースで過ごせる様にしている。</p>	<p>時間帯等により希望に添えない事もある為、出来るだけ満足して頂ける様に努めていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度訪問理美容を利用している。また、洋服はその日に着たい物をご自分で選んでいただいたり、化粧品等好きなようにお洒落を楽しんでいただいている。</p>	<p>今後も、ご本人が希望される事は、出来るだけ支援していきたい。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>料理の得意な方と一緒に食事準備・調理を行っている。</p>	<p>現在は、決まった方が、料理に関わっているのですが、今後は出来るだけ他の方にも、みんなで一緒に取り組める様にしていきたい。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康状態や医療的に制限がなければ、適量を提供している。</p>	<p>提供する量などに十分に注意し、おやつなどは出来るだけ手作り物を提供している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を利用し、出来るだけその方の排泄パターンを把握し、必要であればパットの種類や誘導パターンを検討している。		尿・便失敗やオムツ等による不快感を少しでも取り除ける様な方法、パット選びを考慮している。また、プライバシー確保にも配慮した介助に心掛けている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日にちなどは決まっておらず、出来るだけ毎日入浴していただける様に準備しており、入る順番など決めていない。		状況に応じていつでも準備し出来るだけ、希望に添えるように支援していく。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に出来るだけ、昼間の活動を促しているが、いつでも休める様に用意しており状況に応じ、臥床を促している。		ご本人の負担にならない様に、その状況に応じて支援し過ぎやすい環境作りを心掛ける。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きな事・得意な事等情報を得て支援しているが、全ての入居者の方に対して、個別のケアに心がけている。外出レクや日常生活の中で食事作り・庭の手入れなど行っている。		今後も、タイミングを見て意欲が高まる様声掛け・支援を行ってきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度で行っているが、入居者によって自分で財布に管理している。		お金の所持・管理が難しい方は、こちらで管理し買い物の際は、お金のやり取りをしながら、買い物をするという満足感が得られる様支援していく。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも外に出られるように開放しており、外に出られる際は、必ず付き添えるようにしている。		出来るだけ、外出希望している時に支援出来る様に、他職員と連携を取り実施出来るな取り組みに努めている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	利用者の意見を取り入れ、個人レク・外出を取り入れている。		今後も、出来るだけご本人の意見を取り入れられ様に支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話掛けれる様に、設置しており希望に応じて対応している。		ご家族からの電話や、必要な時はこちらからかけなおし、直接ご本人が話せる様に支援している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来訪して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		来訪の際には、挨拶の後は日頃の楽しい話や、常に話しやすい雰囲気を心掛けている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの内容が身体拘束ではないか、常に考慮し定期的に話し合う機会を持つようしている。		毎月定期的なミーティング時に全職員で確認しながら取り組んでいる。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関はオートロックで鍵がかかっている。ホームの前は、交通量が多く開放した際は、かなりの注意が必要になるが、開かれたホームを目指し		居室の鍵は常に開けており、玄関の鍵も天候により鍵を開放している。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な巡視を徹底しており、常に所在確認を行っている。また特に夜間帯は転倒の危険性が十分高い為に、ご本人に確認しドアの開放し見守りを行っている。		日中・夜間共に、常に定期的な訪室・巡視を徹底している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物に関しては、目につかない所に保管している。はさみや針などの刃物の使用の際は、そばに必ず職員が付き添うようしている。		常に危険を伴う為に、必ず職員がそばで付き添う
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に全職員、危機意識を持ちケアカンファレンスの際に、改めて話し合いを行っている。		マニュアルをステーションに置いてあり目を通し落ち着いて対応出来る様に知識を頭に入れておく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	自主的に救命講習に参加する等している。またホーム内でも自主研修として取り組んでいる。		ホーム内で勉強会や消防署での訓練を受けている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回定期的に避難訓練を行っており、地域の方からの協力を致しますと頼もしい支援の約束をいただいている。		マニュアルなど常に確認出来る様にステーションに設置している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時・面談時また、月1回郵送している「ふれあい通信」にて危険については伝えていて、ケアプラン等にも取り入れケアを行う様になっている。		常にリスクについて説明し1人1人過ごしやすい様に対応している。定期的なケアカンファレンス時に話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、顔色等の様子観察を行い、早期発見・対応に努めている。		特変ある際は、すぐに情報の共有し対応等を考え対応している。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際にも、すぐに情報の共有が出来る様に申し送り時などに確認している。		薬の副作用も主治医に聞き、状況の変化等の観察も行っている。服薬時には、誤薬を防ぐ為にも2人以上で確認を行う様になっている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食でヨーグルトを提供、適度な運動を心掛け、ドクター指導による腹部マッサージ等も取り組んでいる。		食事メニューの工夫や日々の体操など、ご入居者の負担にならない対応を考えている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後と起床時・就寝前の口腔ケアを必ず行っている。		毎食後の口腔ケアの実施により、口腔内清潔保持に努めている。また異常がある場合は、歯科往診で相談し対応方法などを聞いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減に気をつけ水分摂取など十分に気をつけている。		水分摂取は1日1500cc以上を目標にし、食物繊維の多い物を多く取り入れる様心掛けている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルをステーションに置き、目を通す様にしている。また講習に出席したりミーティング時話し合いの機会を持っている。		職員1人1人が十分に気をつけ、委員もあり毎月のミーティング時などに常に話し合っている。状況に応じ素手で触らない・マスク使用など行っている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ずまな板など、キッチン用品の消毒を行い、野菜なども必ずゆでるなどの工夫を行っている。		今後も季節など関係なく継続していく。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草花を増やし事務所前に野菜を育てるスペースを作っている。		門を2ヶ所開放し入りやすいようにしている。ホーム周りに花を植え明るく親しみやすい雰囲気にも努めている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり食事のメニューに季節の食材を取り入れるようにしている。また、入居者の方と一緒に季節のお花を購入したりしている。		日めくりカレンダーをご入居者の方に毎日変えていただいたり、今の季節をわかってもらうようにする。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを設置してゆっくり過ごせるよう場所の提供を行っている。		何ヶ所かソファを設置し、いつでも入居者同士・入居者の方と職員とが談笑出来るスペースを作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた物を持参していただいており、必要な物はその都度用意している。		自宅で使われていたタンス、仏壇等を入れたり、冷まどとあまり変わらない状態で居心地良く過ごしていただけるようにしている。
86	換気、空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気、温度調整は冷えすぎないように配慮している。		状況に応じてその都度調整している。除湿で調整行ったり、冷房の場合は26～28度位設定している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置、段差のない床で安全に生活出来る様なものになっている。		トイレなどの場所がわかりやすい様に、表示の工夫を行っている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る限り自立支援に心掛け、見守りや声掛けにて必要以上に支援しないよう心掛けている。		出来るだけその方にあった生活をしていただけるよう、しっかりと傾聴し混乱を少しでも防げるように支援している。
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように工夫している	花や野菜をホーム庭に植え、花入れ出来る様、また外気浴が出来る様にしている。		草花を増やし庭いじりが出来たり、屋上でお茶を飲み入居者同士交流出来る場がある。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム ウイズライフ新宮

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・地域交流      ・入居者・ご家族・職員との連携